

●「くまもとアートポリス」にまつわるエピソード、計画地周辺の話題などを、くまもとアートポリスニュース誌上で取り上げていきます。ご意見、ご感想をお寄せください。

- 熊本北警察署完成-----計画関係者に聞く
- くまもとアートポリスプロジェクト--ドキュメント

くまもとアートポリス'92

くまもとアートポリスの成果を世界に紹介する



パリで毎年秋開催される国際建築サロン。ここには世界中の建築博、都市博が招待され展示されます。

くまもとアートポリス 対象プロジェクトへの 参加募集

公共・民間を問わず、くまもとアートポリスへの事業参加を求めています。くまもとアートポリスコミッショナー磯崎新氏がプロジェクトにふさわしい建築家やデザイナーなどを推薦します。

関連出版物

ポスター・パンフレット
アートポリスニュース

くまもとアートポリス事務局から以下の出版物が出版されています。

- 『くまもとアートポリス・パンフレット』
- 『アートポリス・ポスター』
- 『くまもとアートポリス・ニュース』のバックナンバー01~04号
- 『くまもとアートポリス・シンポジウム報告書1990』、『同1991』

これらの出版物をご希望の方は熊本県建築課内「くまもとアートポリス事務局」(tel 096-383-1111<内線6220/6221>)までご連絡下さい。



●熊本市堂新地団地、八代市博物館などの建設がよいよいよ大詰めを迎えています。次号では最新状況をレポートします。

12 1992年、本県では本格的な国際建築展「くまもとアートポリス'92」の開催を予定しています。

国際建築展「くまもとアートポリス'92」はアートポリス事業の成果を熊本県内のみならず、日本全国、そして世界に向けて発表しようという大規模な展覧会です。会場は熊本県下に建設されつつあるアートポリス参加の建物やその周辺、そして各市町村のまちづくり対象地域などです。

まちづくりを通じた国際交流は今、ますます盛んになってきています。



僕たちの街はどうなるのかな? 家族連れで賑わうサロン



大阪で開催された花と緑の博覧会には県立博物館分館の設計者ラベニャ&トーレスも招待され、会場を盛り上げた



完成した熊本北警察署

●発行-くまもとアートポリス事務局
熊本県土木建築課内 熊本市水前寺6-18-1
tel 096-383-1111 (内線6220/6221)
●編集-くまもとアートポリスコミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-5-7 本間ビル
建築・都市ワークショップ内 tel 03-407-4753

K·A·P

9011

熊本北警察署



白川公園側より見る

黒い円筒は設備の機械が収められている



熊本市の中心部草葉町に熊本北警察署が完成した。3号線沿線、白川公園からは上に行くほどせりだしたハーフミラー張りの正面が見える。道路側から大きく後退したこともあって、この周辺がぱっと明るくなったようだ。白川に向かう脇道にはせせらぎが流れ、町並みまでが雰囲気をがらりと変えてしまったようである。

以前の北署を知らない人は、新装なったこの建物が警察署だとは気づかないだろう。それほど旧来の警察署のイメージを覆しているのである。

「くまもとアートポリス」のスローガン「都市にデザインを」を見事に表現した建築だ。ここを訪れた人なら誰もが強烈な印象を与えられるに違いない。旧来の警察署の持っている威厳や堅苦しさといったイメージに取って替わって、この新しい警察署が町の中であって親しみやすさを育んでいけばと願われる。

さて設計にあたった建築家、篠原一男氏は「公共建築が町の中に独特のパワーを発揮すべきだ」「警察署の建物が必ずしもすべての部分において、堅固であったり、閉鎖的である必要はない」との考えを持った。今回作られた建築がデザインの上で町に刺激や活気を与え、警察署の機能を越えて新しい環境を生み出す核になってほしいという考えだったのだ。本誌では、県警察本部会計課長としてこの建築の実現にかかわった洲上兼次氏、着任早々に新庁舎に入居、早く新しい建物に慣れるよう職員を叱咤激励する北警察署長松本公男氏にお話を伺った。



松本氏は昨年まで東京の警察庁勤務だったが、今年の3月から熊本北警察署長に着任された。当初、なによりもガラス張りの警察署庁舎には驚ろかされたというが、現在はこの建物が持っている格調を大切にしたいという。

「警察署の建築は、犯罪などへの抑止力を持たなくてはなりません。大津町にある警察署はいかにも堅固で、威厳のある建物。署員数の割には大きな建物であり、これが地域の人々に安心感を与えるんです。建物の存在感が犯罪の防止に役立っているというわけですね。それに較べて、この北署はいかにも開放的です。しかし、地域の協力団体などの意見を聞いてみると、やはりこの建物への信頼感が高い。

この二つの警察署は対照的なあり方ですが、建物が治安を守るといふ点では同じなんです」

ここ北署では市民に向けた建物ということで、署員の市民対応にも気を遣われているとのこと。

「市民に対してもつっけんどんでいちゃいかん。これはいつも署員に対していっていることなんです。市民に北署の存在が浸透していくことが北署なりの抑止力になると考えています」

●署員が勤めることが誇りになるような庁舎だというのが嬉しいですね



1階 エントランス、ロビー

撮影 石丸捷一

事務棟との間にあるガラス張りの吹き抜けを見上げる



さて、新庁舎に移ってきた北署の署員がとまどったことがある。それはガラス張りの外観とオフィス環境の激変であった。ここ北署では事務机、椅子、照明、収納すべてが完璧にシステム化されている。しかし、このことは単に機能性の向上だけではなく、さまざまな合理化に繋がっていったのである。たとえば、パトロールカーでの勤務などいわゆる外勤の署員の机は三交替で使うが、キャスター付きの引き出しを各自が使用する時だけセットして使うというような新しいシステムも考え出された。旧来の書類の山に囲まれたお役所のイメージは一掃されている。

「終業時には机の上に一切モノをおいたらいかんと徹底させました」署長の一声があって、オフィス内は制服姿の署員がいなければ商社の本社ビルにいるのではと勘違いしそうなほど。ただし、署内の司法書類などは縦書きの物が多く、ファイリングのシステムはまだまだこれからの研究課題とのことである。

「署員がこの北署に勤めていることを誇りとしている、これが大事です。今年度の警察官の採用でも北署に来たいと希望するものが多くて大変でした」。署員の家族を招いた新庁舎見学会を行なったときも、大好評であったという。

すでに日本全国から警察関係者が見学に訪れている。インドネシアの警察官も見学にきた。新しい町の中に建つ警察署のあり方に対して関心が高まっていることが伺い知れる。

「でも警察署は無防備ではいけません。災害時にはここが警備本部になるわけですから。そういった意味などで、ここには県内20キロ以内なら、現場を生中継して総合指揮を取るハイテク設備も備えています。このようなすばらしい施設をいただき、住民サイドに立った真に開かれた警察署として、署員一同はりきって職務に取り組んでいるところです」

◎

北署建て替えにあたり、警察署サイドで基本構想やプログラムづくりを担当され、建設計画をまとめてこられた瀧上兼次氏は、しかしながら竣工を待たず、熊本市内の警察学校校長に栄転された。そこで瀧上氏を警察学校にお訪ねした。

「はじめ署内では建築としての芸術性が高くても、機能が損なわれるのではという懸念がありました。そのうえ建築家をお願いするには設計期間が短いということも不安でした。最初に熊本県の建築課長が来られたとき『警察署はみんなに見ていただくような建築ではない、ダメだ』とお断りしたんです」

その後、様々な検討が重ねられ、本庁の確認を経て「アートポリス」でいこうということになった。当時は発足当初の「くまもとアートポリス」第一号プロジェクト。瀧上氏へは署内のさまざまな不安が集中した。

●無駄に見えるような空間も長い目で見れば大きな効果を持つ-----――― 瀨上警察学校校長



「幸い、熊本県側で篠原一男氏と協同して設計にあたった太宏設計が我々との間に立って頑張ってくださいませね」

太宏設計は4年前に竣工した熊本南警察署の設計を手掛けた熊本市の設計事務所。その経験が今回のプロジェクトに大いに活かされたのである。

「篠原さんに最初にお会いした時『設計者というのはクライアントの注文に応えるのが仕事だ』とおっしゃった。非常にうまく私達の要求を取り入れられたと思います。会計課の建築士が署内全体の仕事の流れ、人の動線を洗いだした基本構想をつくっていた。本部長あたりまで決裁を取っていた頃です。このプログラムをもとに基本設計が始まったんですが、大きな変更というのはなかったですね。警察の仕事をよく理解して計画していただいたと思っています」

会計課長以前は最前線の捜査課に在籍した瀨上氏、もちろん建物の設計に携わるような経験は皆無だった。警察署建設の経験がなかったから、既成のイメージにとらわれずに計画にあられたという。会計課は課長を除いてはほとんどが事務職だが、現場の仕事の流れや内容を理解した実地経験が活かされるという。

6 しかし、自分で何回も練り直し、把握した建築プログラムも、篠原氏の手になった基本計画を見たときは驚かされた瀨上氏。

「敷地が細長いから建物も長い箱のようなものと決めていた。ところが篠原氏から出された案は、下が狭く、上に行くほど大きくなっているというもの。正面は堂々としていながらも駐車場に降りていく車の動線等をうまく処理されているんですね。敷地の有効利用というんでしょうか、びっくりしました」

篠原氏の町並みに対する提案、歩道との間をせせらぎが流れる「ウォーターベルト」も予算の関係で一時、削られかけていた。

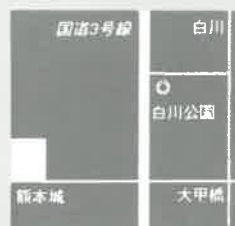
「これからの警察署はアベックのくるようなものでなきゃいかん。こういうものはあとからはつくれないよ」。

警察本部長が設計の打ち合わせの時、こんな発言をされ、ウォーターベルトが復活した。おかげでこの脇道も雰囲気が一変することになったのである。

「機能一辺倒の警察署じゃいかんということですね。長い目で見ればこのような一見無駄なものが、いろいろな効果を持つてくる。中にいる者の意識も変わるんです、関心を持たれていると思えば、だらけられませんね」

一般には気付かれない部分ではあるが、被疑者の動線や一般人の動線が重ならないようにとか、参考人や被害者を事情聴取するブースも外からの視線を遮るようになど、人権に対する配慮が内部空間のプログラムに盛り込まれているのも、北警察署での新しい試みである。

●見学案内
熊本市内3号線沿い、
白川公園の隣。内部
の見学は警察署の許
可を必ず受けるこ
と。



撮影 石丸権一



正面最上階の柔道剣道場 少年剣士もここで汗を流す

現在は後進の指導にあたる瀨上氏は、北署がどのように使われ、親しまれていくか、これから楽しみだと頬をゆるめる。

「警察学校の学生も、北警察署に入りたいという者が一番多いです。熊本で一番大きな警察署をつくるということに加えて、後世に残る文化をつくるという意義ある仕事に参加できて、本当に良かったです」

●熊本北警察署の設計を振り返って

太宏設計設計事務所 鎌修次



工事中の北警察署

設計から竣工まで2年半を有し、このたびくまもとアートポリス構想第一号の熊本北警察署が完成いたしました。篠原先生とともに企画・設計・監理に携わった一人として、この仕事を成し遂げ「ホッ」とした気持ちです。また、このプロジェクトを振り返ってみれば、私自身実りあるものであったといえます。

私たちが日本の有名建築家の先生方と仕事を共にする機会などそうわるわけもなく、このアートポリスを通じて何か一つでも学び取ろうという気持ちで臨みました。細川知事の構想の一つであるくまもとアートポリスは賛否両論ありますが、私は非常に意義あるものだと思いますし、数々の作品が何らかのコンセプトを持っているわけですから、同じ建築を志す人たちは建物を見学しながら、そのコンセプトを自分なりに考えてみるだけでもメリットがあると思います。

今だからこのようなことがいえますが、設計当初はアートポリス第一号および設計協同企業体ということで私たちの考えや力がどれだけ通用するのかわ

からず、かなりプレッシャーを感じていました。

しかし、基本設計の時から建物の機能的なことは南警察署の経験があるということである程度任せていただき、またこちらの意見もスムーズに受け入れてもらったことで、そのプレッシャーも徐々に取り除かれていきました。警察という特殊な建物でもあり、また官庁工事ということで、篠原先生にはいろいろな面で気を遣っていただいたのも事実です。

それと業務の分担が主要なデザインや仕上げなどは篠原先生サイド、その案に機能的な肉付けをし、県警側と打ち合わせをしながら図面化するのが太宏サイドと明確に分担がされていました。

また、打ち合わせの場においても篠原アトリエ←→太宏←→県警というように必ず間に入りコーディネーター的役割でお互いの内容を的確に把握できたのも良かったと思っています。

一方の案にとらわれたりせずに、さまざまな角度からアイデアや意見を出すことができ、まとまりよいものと

なっていく、設計協同企業体の良さが出たのではないかと考えています。現場監理についても大きな問題もなく事が運んだのは、ディテールに及ぶまでディスカッションに応じていただき、何度も現場に足を運んでいただいた篠原先生の仕事に対する真摯な姿勢によるものと考えています。現場では周囲に溶け込み、真剣な中にも笑いが絶えない雰囲気を作っていました。建設会社サイドも「意気」を感じさせる所長で「篠原先生のためなら何でもやりますよ」といってわれわれ設計監理者をバックアップしていただきました。工事関係者全員でいいものをつくらうという気持ちがひしひしと伝わった現場でもありました。

設計・監理共同体の名に相応しく、お互いの考えをそれぞれの立場からたえずディスカッションしながら進めたプロジェクトであったと思います。また「開かれた警察署」というコンセプトにふさわしい軽快で近代的な熊本北警察署がこれからの熊本の建築や環境に何かを投げ掛け、大きな影響を及ぼしていくことと思います。

熊本北警察署データ

設計	篠原一男アトリエ・太宏設計事務所設計監理共同体
施工	竹中・増永・三津野建設工事共同企業体
敷地面積	6,926 m ²
建築面積	2,230 m ²
延床面積	8,695 m ²
構造	鉄骨造+鉄筋コンクリート造
規模	地下1階、地上5階、塔屋1階
高さ	最高26.7 m、軒高20.6 m
おもな外部仕上げ:	
外壁	アルミパネル張り、オープンジョイント工法
建具	カーテンウォール(スチールマリオンタイプ)

●くまもとアートポリスはこのような進められます

くまもとアートポリス プロジェクト・ストーリー

くまもとアートポリスは「都市にデザインを、田園にアイデアを」をキーワードとして、後世にのこる文化資産、つまり質の高いデザインを熊本全圏につくっていかうという事業です。

すでに熊本県内外のさまざまな建築家がこの事業に招待され、設計に携わっていますが、実際に建物や環境が整備されるまでは、なかなか一般のひとびとの目に触れる機会がありません。

一昨年より開催されている「くまもとアートポリス・シンポジウム」や「くまもとアートポリス・プロジェクト展」など、さまざまな活動を通じてこの事業を紹介し、ひろく県民のみなさんの意見を聞き、声を集めていくよう心掛けております。さて、「くまもとアートポリス」事業がどのような仕組みで動いていくのかを紹介します。

プロジェクトがくまもとアートポリスに参加するまで



建設中の三角港フェリーターミナル

<くまもとアートポリス>に参加する建設プロジェクトには県、市町村、民間企業などさまざまな事業主の種類があります。そのプロジェクトがくまもとアートポリスに参加する場合、まず、熊本県「くまもとアートポリス事務局」へ参加申込みの相談することになります。

その後、ただちに事務局スタッフが依頼者を訪れ、プロジェクトの内容、規模などから、環境への貢献の可能性、スケジュールなど、あらゆる設計条件についてお伺いします。さらに建築プログラム、スケジュール、予算などの計画が事務局の参加で調整され、県知事の承認を経て、正式な参加が決定します。

コミッショナーが建築家を推薦

<くまもとアートポリス>では、設計者の決定が独自の方法で行なわれます。つまり、<くまもとアートポリス>コ

ミッショナーである磯崎新と事務局が条件を慎重に検討し、候補者を知事に推薦するのです。

<くまもとアートポリス>は一つ一つの建築を作るだけでなく、熊本全圏を対象に長期的な構想を進めるプロジェクトです。この特長を活かし、その建物の周辺地域の環境や伝統も含めて、もっとも適切な建築家選ばれます。事務局には様々なプロジェクトに対応できるように、国内外の様々な建築家の資料や情報が収集されています。

依頼者と建築家のお見合い



説明を聞く北山孝二郎氏 津奈木町物産センター敷地にて

選ばれた設計者はまず現地を訪れます。すでに依頼者と設計者とのあいだでは、資料の交換やプロジェクトへの準備が整えられており、いわば「お見合い」のような、事業主と設計者との出会いとなります。

協同設計者との協力体制

プロジェクトによっては設計者が外国の建築家となることもあります。その

ようなとき、熊本県内のキャリアある設計事務所や建築家が協同して設計にあたる場合があります。

こうした協力体制がくまもとアートポリスのもう一つの特徴ともいえます。

設計するだけではない アートポリス建築家の仕事



東京で開催されたくまもとアートポリス展覧会

<くまもとアートポリス>参加の建築家は、熊本県での事務的な打合せ以外に、小さな懇談会や講演会などに参加することもあります。建設の進行に応じて、建築設計関係者や一般人を対象に現場の見学会を開催することもあります。

くまもとアートポリス活動

<くまもとアートポリス>が建築を設計するだけの事業ではありません。<くまもとアートポリス>アドバイザーである熊本大学の堀内清治教授はこの事業が常に県内の環境貢献に寄与するよう、さまざまなまちづくり運動、研究活動との協力体制を作っています。

●参加プロジェクト・リスト

プロジェクト名	設計者名	作業過程	完成予定
熊本北警察署	篠原一男+太宏設計事務所	竣工	-
県営保田窪第一団地	山本理顕	1期完了	-
加久藤トンネル換気所	小山明+パシフィックコンサルタンツ	竣工	-
三角港旅客上屋	葉祥栄	竣工	-
八代市博物館	伊東豊雄	建設中	1991.03
熊本市公衆便所(花畑公園)	大塚豊一	竣工	-
熊本市公衆便所(江津湖公園)	日田兆	竣工	-
熊本市営新地団地A	早川邦彦	建設中	1991.03
熊本市営新地団地B	緒方理一郎	実施設計中	
熊本市営新地団地C	富永譲	実施設計中	
熊本市営新地団地D	西岡弘	実施設計中	
熊本市営新地団地E	上田憲二郎	実施設計中	
県道橋景観整備 (基礎調査)	倉俣史朗+高木富士川計画事務所	計画完了	
熊本市営託麻団地	坂本一成+長谷川逸子+松永安光	実施設計完了	
山鹿市光のまちづくり計画	岩崎敬+瀬口英徳	計画策定中	
牛深港架橋	レンソ・'ビ'アノ+ピ-ター・ライス+岡部憲明+前田設計	設計中	
県営帯山A団地 (公開コンペ)	新納至門	実施設計中	
玉名市地域総合センター	豊田文生(基本構想)	基本構想策定中	
湯の香橋	岸和郎	建設中	1991.03
清和村文楽館	石井和紘	実施設計中	
風土記の丘資料館	安藤忠雄	建設中	1991.12
球磨工業高校伝統建築実習棟	象設計集団	建設中	1991.03
鮎の瀬大橋	大野美代子+中央設計コンサルタンツ	設計中	
公園ファンチャーデザイン同整備マニュアル	沖健次+東京ランドスケープ研究所	設計中	
松島町下水処理場管理棟	斉藤宏	実施設計中	
石打ダム管理棟	青木茂	建設中	1991.01

プロジェクト名	設計者名	作業過程	完成予定
県営新渡鹿団地	小宮山昭	実施設計中	
大津町第2庁舎および町民集会施設	鈴木了二	実施設計中	
玉名市ふるさと展望館	高崎正治	実施設計中	
大甲橋景観整備	倉俣史朗	設計中	
草地畜産研究所牛舎	トム・ヘネガン+桜樹会・古川建築事務所	基本設計中	
再春館製薬所女子寮	妹島和世	建設中	
県立美術館分館	ラハ・ニヤ・アント・トリス+大和設計	基本設計中	
湯前町まんが美術館	桂英昭	基本設計中	
県営住宅竜蛇平団地	元倉真琴	基本設計中	
津奈木町物産センター	北山孝二郎	契約準備中	
チャペルの鐘展望公園	梅田正徳+スペースデザイン設計事務所	契約準備中	

●参加プロジェクト建設地

